

保幼小連携教育における「言葉」の在り方

A Comparative Study of “Words” in Collaborative Education between Elementary Schools and Nursery Schools/Kindergartens

望 月 真

MOCHIZUKI Shin

キーワード：子どもと言葉Ⅰ・領域「言葉」・幼稚園教育要領・小学校学習指導要領

はじめに

平成 29 年 3 月 31 日に、文部科学省から「幼稚園教育要領」、厚生労働省から「保育所保育指針」、内閣府、文部科学省、厚生労働省から「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が告示された。同様に文部科学省から小学校学習指導要領も告示されている。このことにより、子どもの誕生から 12 年間の学びの地図が示されたといってもよい。この連続した 12 年間にわたる学びの中で、何より大きな節目は、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の接続部分である。この接続部分においては、子どもたちにとって先生も学ぶ場も学ぶ内容もすべてが変わり、大きなギャップを感じる事となる。いわゆる「小 1 プロブレム」である。本稿では、子どもたちの幼稚園・保育所と小学校の滑らかな連携接続を図るため、領域「言葉」に焦点を当てて論究してみたい。

1 小学校学習指導要領「国語科」の目標と幼稚園教育要領「言葉」のねらいの比較検討

はじめに小学校「国語科」、幼稚園の「言葉」における目標（ねらい）を比較検討することとする。幼保小連携を観点としているので、小学校「国語科」においては第 1 学年及び第 2 学年を取り上げることにする。

次期小学校学習指導要領においては、国語科の第 1 学年及び第 2 学年の目標及び内容が次のように示されている。※ 下線部及び○付数字は筆者。

[小学校学習指導要領における第 1 学年及び第 2 学年の目標]

- (1) 相手に応じ、①身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、②大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、③進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
- (2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。
- (3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、④想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。¹⁾

続いて幼稚園教育要領における「言葉」のねらいを引用する。※ 下線部及び○付数字は筆者。

[幼稚園教育要領における「言葉」におけるねらい]

- (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- (2) ②人の言葉や話などをよく聞き、①自分の経験したことや考えたことを話し、③伝え合う喜びを味わう。
- (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、④言葉に対す

る感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。²⁾

それぞれの教育要領における目標（ねらい）の対応箇所を比較し、考察する。

（幼）は幼稚園教育要領，（小）は小学校学習指導要領の略。

（幼）①自分の経験したことや考えたことを話し

↓

（小）①身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力

幼稚園において、幼児が自ら経験したことを話すことと考えたことを話すことは、同じレベルの言語活動ではない。経験したことを話すには、経験したこと自体を言葉に置き換えることができれば可能である。園庭や園舎内にある物を言葉で置き換え、その物を用いる動作を言葉で表現できれば話すことができる。また、考えたことを話すということは、幼児自らが思考し表現することである。経験したことを話すこととは異なり、思考したことを表現する場面設定が必要となる。教師による場面設定が課題となるであろう。

小学校においては、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話すことが求められる。このことは、自分の話を聞く相手がいることを想定している。コミュニケーションの始まりである。自分が話したいことを聞き手が理解してくれるように話さなければコミュニケーションは成立しない。そのためには、事柄の順序を追って話すことは、話し方の技法としてはじめに身に付けるものとされている。

幼稚園においては、幼児に考えたことを話させる時に、教師が順序を念頭において働きかけをすることが大切である。「はじめに」、「つぎに」、「そして」などの言葉を教師側から幼児に与えて話をさせるのも一方法である。

（幼）②人の言葉や話などをよく聞き

↓

（小）②大事なことを落とさないように聞く能力

幼稚園において、幼児に人の言葉や話などをよく聞かせるためには、教師の教育技術が必要とされる。教師の話す内容が幼児が興味をもたないもの、聞く必然性がないものであれば、当然よく聞くことはしない。また、教師の音量、口調、抑揚、表情など、多くの話すことの教育技術が重ね合わさって幼児はよく聞くことを始める。

小学校においては、幼稚園の「よく聞く」ことに加えて、「大事なことを落とさないように」聞くことが求められている。つまり、幼児から児童になって主体的に聞くことが始まる。聞き手である児童自らが大事なことを考えながら聞くことができるようにしなければならない。

幼稚園においては、教師が大事なことだけを伝える習慣をつけ、幼児に何が大事であるかを認識させる必要がある。教師が簡潔な話をすることによって、幼児は大事な部分だけを聞く習慣を付けることができる。

（幼）③伝え合う喜びを味わう

↓

（小）③進んで話したり聞いたりしようとする態度

幼稚園において、幼児に伝え合う喜びを味わわせるためには意思の疎通を図り合う場面設定が必要となる。環境の中の遊びを通して、共同して制作する過程、自分の作品が承認される時、友だちの作品を評価する時など、会話が発生して喜びを分かち合うことができるであろう。

小学校においては、進んで話したり聞いたりする態度を身に付けさせなければならない。自ら進んで他者とのコミュニケーションをとる態度である。授業中はもちろんのこと、学校生活のさまざま

まな場面で、集団遊び、当番や係活動などを仕組んで他者とのコミュニケーションをとらせる必要がある。

幼稚園においても、意図的に遊びを共同化する、生活の中の当番活動等において幼児が互いにコミュニケーションをとらなければ達成できない場面設定をすることが必要となる。一人一人の幼児の個性も見極めながら話題を設定し、対等の立場で話し合わせる大切である。

(幼) ④言葉に対する感覚を豊か

↓

(小) ④想像を広げたりしながら読む能力

幼稚園において園全体の環境構成を整え、園児が四季の移ろいを肌で感じ取ったり、自然の動植物を愛おしんだりする中で、その感情を表現しようとする時に言葉に対する感覚が豊かになる。まだ十分な言葉を持ちえない幼児に対して、豊かな言葉を与え育んでいくのは教師に他ならない。教師の言葉の感覚が幼児に受けつがれていくといってもよいだろう。

小学校においては、教科としての国語科の授業が始まる中で想像力を育成することが求められることになる。幼稚園の時に培った言葉の感覚を生かし、教科書や絵本の世界に入り込み想像力を育む経験を重ねることが大切である。

幼稚園においては、教師の言葉の感覚を磨くとともに園の環境を見直し、自然であったり、色彩であったり、幼児の五感に訴えかける構成が整っているか検証する必要がある。

ここまで、「小学校学習指導要領」の目標、「幼稚園教育要領」の目標（ねらい）をもとに概観した。続いて、小学校の国語科の授業を想定して幼児期に付けることができる力を探してみたい。

2 指導内容の比較検討

小学校国語科では、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の領域に分かれるが、幼稚園からの連携という観点から「話すこと・聞くこと」について取り上げたい。

〔「小学校学習指導要領」における「話すこと・聞くこと」の指導事項〕

(1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。
- イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。
- ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。
- エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。
- オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。³⁾

教科としての国語科の指導事項として示されているため、これらの指導事項は国語科の授業時間内に指導が行われることになる。しかしながら、ここで示された指導事項は、幼稚園教育要領の「言葉」の内容の中に多くは包含されている。以下、引用してほぼ合致する部分を下線部で示すことにする。

〔「幼稚園教育要領」における「言葉」の内容〕

- (1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち（アと合致：以後カタカナのみ表記）、親しみをもって聞いたり（エ）、話したりする。
- (2) したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する（イ）。
- (3) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- (4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す（オ）。

- (5) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- (6) 親しみをもって日常の挨拶をする。(ウ)
- (7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
- (8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- (9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
- (10) 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。(オ)⁴⁾

このように小学校の国語科で指導する内容は、前段階の「幼稚園教育要領」の中に示されている内容には含まれている。児童はこれまで幼稚園という環境の中で育まれてきた言葉を教科としての国語科において整理し、教科の枠組みの中で学び直すことになる。幼稚園で得た言葉が豊富であればあるほど、小学校での学習が幅広いものになる。同じ学習を行っても、言葉が豊富な子どもは知っている言葉を整理することになるのに対し、言葉が乏しい子どもは新たに言葉を獲得していかなければ学習が成立しない。幼稚園の時の言葉の獲得数は、小学校の国語科の学習成果に影響を与えることになる。

但し、小学校国語科の「丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話す」は、幼稚園における内容には合致する部分がない。この内容は、小学校で初めて学習するパブリックスピーキングの第一歩である。授業時間中に使う言葉遣い、目上の人に対する話し方、公共の場での話し方など、社会を意識した指導がなされることになる。

こうした点をふまえて、幼稚園においても年長児の園生活のカリキュラムを小学校生活を意識したものに改善していく必要がある。少なくともパブリックスピーキングの存在を意識させることは有効である。

3 「小1プロブレム」の解消に向けて

これまで小学校学習指導要領と幼稚園教育要領の目標（ねらい）と指導事項（内容）の比較検討をした。ここでは、「小1プロブレム」解消に向けて、幼稚園における取り組みを構想してみたい。

(1) パブリックスピーキングの習得について

幼稚園においては、園児相互、園児と教師の会話は、意思の疎通を図る手段としていわゆるプライベートスピーキングとしてなされている。園児は、園生活においてのみパブリックスピーキングを聞くことができる。そのため、少なくとも教師がある場面において共通語で話すことは、園児にとっては新たな言葉として認識されることになる。こうした場においては、共通語を用いるべきであるという学習にもなる。小学校に入学後は、教師は授業中は共通語で話し、児童はそれに応じなければならない。園生活において、共通語の耳慣れは有効であると考ええる。

(2) ひらがなの先行学習について

小学校に入学したら、国語科の授業でひらがなの読み書きの学習が始まる。1年生の児童にとって、特にひらがなを書くことは相当レベルの高い学習である。その抵抗感を取り除くためにも、少なくともひらがなを読むことができれば児童の学習の抵抗感は低くなり、学習意欲の向上も図られると思われる。園において、園舎内に物品名のひらがな表記をすることは有効ではないかと考える。物の名前とひらがなが一致する経験を積み重ねれば、必然的に音と表記の一致を認識して習得していくのではないかと考える。

(3) 読み聞かせのプログラム化

多くの園で絵本や紙芝居の読み聞かせは、日常的に行われていることであろう。ここでは、絵本や紙芝居の選択を、2017年に改訂された「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定

こども園・保育要領」の内容の変更に伴い示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」に基づいて行うことを提案したい。絵本や紙芝居の内容が10の姿に照らして、その姿に合致しているのか、事前に調べて選定を図るのは有効な手段であると考えている。

おわりに

幼保小の連携教育について、小学校国語科と幼稚園の「言葉」に焦点をあてて、その在り方を模索してみた。「小一プロブレム」の解消の一助になれば幸いである。

「小一プロブレム」がなぜ起きるのか。根本に立ち戻る問題提起であるが、幼児である時に児童の経験が皆無であることが一因であるように思われる。小学校と幼稚園が校種を超えて、交わり合う部分を設定しなくてはならない。例えば、近年の少子化の影響でどの小学校にもいわゆる空き教室があるであろう。空き教室の一つを幼稚園への解放教室として、園活動の一環として自由に活用するなどの方法が考えられるであろう。問題が生じている時には、具体的な解決策は必須である。

〔引用文献〕

- 1 文部科学省 HP > 小学校学習指導要領 > 第2章各教科 第1節国語
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/koku.htm(2018.09.05)
- 2 文部科学省 HP > 幼稚園教育要領
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/k19981214001/k19981214001.html(2018.09.05)
- 3 文部科学省 HP > 小学校学習指導要領 > 第2章各教科 第1節国語
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/koku.htm(2018.09.05)
- 4 文部科学省 HP > 幼稚園教育要領
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/k19981214001/k19981214001.html(2018.09.05)

〔参考文献〕

- 「子どもとことば」 岡本夏木 岩波新書 1982年
「幼児期」 岡本夏木 岩波新書 2005年